

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【保健体育科／体づくり運動】

1. 対象 知的障害 高等部1、2、3年生 Aグループ 85人
 - ・高等部では3学年縦割りで、生徒の実態に応じてABCの3つのグループに分かれて体育を行っている。ただ、職場実習等があるため、3学年がそろっての体育を行うことができる単元は、年に2回ほどである。
 - ・Aグループの生徒は運動能力の実態差はあるが、運動に対する意欲が高く、教師の説明を聞いて、内容を理解して行動に移すことができる。
2. 単元名「〇〇トレーニング（体づくり運動）」

〇〇トレーニングとは、体づくり運動の要素を組み合わせ、体ほぐしの運動から体の動きを高める運動まで、徐々に運動量が増えていったり負荷がかかるようにしたりした運動を、映像化した教材であり、火曜、木曜の体育開始時に、15分程度を年間通して取り組んでいく。

1学期では、〇〇トレーニングを知る、やってみる時期として授業開始時に取り組み始めた。

毎授業行っていくことで、徐々に〇〇トレーニングのやり方が分かったり、出来る動きが増えてたりしてきている。2学期には、さらに新しい動きを加え、それをまた覚えながら〇〇トレーニングに広がりを持たせたい。3学期では、覚えた〇〇トレーニングを生徒たちで組み立てたり新しい動きを自分たちで考えたりしていけるように、年間を通して取り組んでいく。

体を動かす楽しさや自分から活動に取り組もうとする力を付けることで、将来の社会生活の中で活かせるようにしたい。

3. 単元（年間）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・体づくり運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、その行い方や方法を理解するとともに、仲間と関わったり、様々な動きを持続する能力を高めたりすることができる。
思考力、判断力、表現力等	・運動をする上での自他の課題を発見し、解決のために工夫したり仲間と考えたりしたことを他者に伝えることができる。
学びに向かう力、人間性等	・1つの場所に集団で集まって体づくり運動をするときに、きまりやルール、マナーなどを守り、自分から進んで活動に取り組んだり、仲間と協力しながら取り組んだりしながら、自主的に運動する態度を養うことができる。

4. 本時の目標 省略

5. 授業展開【 単元 】

解決したい課題や問い

- ・生徒が、今まで出来なかった動きやうまくできない動きを取り入れようとして長い時間できるようにしたりと、自分から運動に取り組むことができる。

考えるための材料

- ・クラス一台あるiPadに〇〇トレーニングの映像を入れておき、その映像を参考にして模倣する。（プロジェクターを使って、全体に見せたりiPadを使って個別に見せたりする。）
- ・教師が目の前で見本を見せたり、手を添えてやり方を確認したりする。

想定される活動

- ・教材があることで、映像を見ながら真似したり、自分から取り組もうとしたり、友達同士で声を掛け合って取り組む姿。
- ・動きのポイントを、映像に注目させたり、教師が見本を見せたり、言葉を掛けたりしながら伝えることで、やり方を覚える。

対話と思考（対話を通した協働的な問題解決のプロセス）

- ・〇〇トレーニングの動画を、一つ一つの動きごとと区切ることで、一人で確認しながら取り組めるようにする。
- ・動画で動きごとに気を付けたいポイントを伝え、生徒の実態に応じて難易度を設定する。
「この動きは難しい。」「どっちの手（足）を前に出しているのかな？」「どうすればできるようになるのかな？」「こうやってやるとできる！」「（この動きが）できるようになった。」

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・最初は出来なかった動きが、回数を重ねることでできるようになる。
- ・生徒の方から、「こんな動きもあるよ」と、教師に伝えてくる。
- ・生徒同士で「こうやってできるよ」「こうやってやるんだよ」と対話しながら取り組む。
- ・体育の授業以外にも、朝の活動として取り組んでいる。そのため、生徒が自分から〇〇トレーニングを行う教室（音楽室）に集まって来たり、「先生今日はやらないんですか？」と声を掛けて来たりする。